

1. 事業内容

(1) 環境学習ツアーの実践

①岡山大学実践型社会連携授業（2020年9月17日～19日）

みずしま財団 塩飽敏史

9月17日（木）～19日（土）の3日間、水島商店街をフィールドに「まちづくり」をテーマに学ぶ岡山大学実践型社会連携授業（担当：岩淵泰准教授）を実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、参加者を制限し、参加した学生は、6名でした。

大気汚染公害を経験した水島地域では、環境に配慮した上でにぎわいのある、人々が住み続けたいと思えるまちづくりを目指した取り組みが進められています。昨年度（2019年度）に引き続き、「ミズシマ・パークマネジメント・ラボラトリー（以下：MPMラボ）」が主催する「Park(ing)Day 倉敷」に参加することで地域の方と交流し、まちづくりのあり方などについて実践的に学ぶことを目的としました。

1日目は、岡山大学での座学で、水島の公害経験とその教訓を未来に活かす活動と水島でのまちづくりの取り組みについて基礎的な情報を学びました。その後、18日に実施される「Park(ing)Day 倉敷」について学びました。

2日目は、実際に水島に移動し、Park(ing)Day 倉敷の主催者である MPM ラボの関係者と交流をしながら、会場設営の段階から参加し、本番では地域の参加者との交流を行いました。

3日目は、古川明氏の案内で水島商店街を散策した後、振り返りとしてまちづくりの課題などについて話し合いました。

9月17日（木） 全体進行：岩淵泰准教授（岡山大学 地域総合研究センター）

9:00～12:00 レクチャー「水島の発達史 ～地域開発、公害から環境へ～」

講師：塩飽敏史（みずしま財団）

12:00～13:00 昼食

13:00～14:30 レクチャー「水島商店街の歴史とまちづくりの現状」

講師：古川明氏（MPM ラボ）

15:00～16:00 レクチャー「Park(ing)Day 倉敷について」

講師：古川明氏

9月18日（金）

9:00 岡山大学を出発

10:00～17:00 MPM ラボのメンバーと顔合わせ、準備

17:00～20:00 Park(ing)Day 倉敷

・水島おかみさん会との交流

セレクトン倉敷水島に宿泊

9月19日（土）

9:00～10:00 まち歩き（解説：古川明氏）

10:00～11:00 全体の振り返り作業、解散



古川明氏によるレクチャーの様子



水島おかみさん会との交流

【学生レポートより】

- ・ 会場には幅広い世代の参加者がいて、ゲームをしたり、人工芝の上に座り談笑したり、Park(ing)Dayが終わった後も残って話を続けている人がいたりして、まさしく「憩いの場」ができていた。現在においてこのような場所は「非日常的」なものと感じられるが、様々な場所に今回の会場のような場所が設置できればそれが「日常的」なものとなり、日常の中に憩いの場が当たり前にあるという生活が作れるのではないだろうか。
- ・ 水島の人たちには「水島をもっと良い場所に」という思いと、それを行動に移すだけの力があることに気づくことができた。水島に住む人には力がある、と感じられた。これだけの条件が揃っているのだから、水島が今よりも活気のある場所になるときも、そう遠くはないだろう。そう思うことのできる気づきを、今回の講義で与えてもらった。
- ・ Park(ing)Day 倉敷で気づいたことは、水島は都会のような街ではない分、地域のコミュニティを大切にしているということだ。作業の時間中に地域の方が通りすがりの方と普通に話しているのを見かけた。街中ではなかなか見ないものと思った。
- ・ ユニークに感じた点は、Park(ing)Day 倉敷をイベントとして考えるというよりかは、話し合えるパブリックスペースをつくることに目的を置いていたところです。
- ・ Park(ing)Day は、何も無いところから活気のある場所へと変化している様子は、他の人口減少が起きている町も参考になるようなイベントだと私は感じました。

【まとめ】

本授業では、若者が「Park(ing)Day 倉敷」に参加し、地域の隠れた資源を発掘することを目的にしました。Park(ing)Dayでは、パブリックスペースを活用したまちづくりの哲学を学びました。そして、設営の段階から地域の方と一緒に汗をかき、作業することでより深く交流を行うことができました。

おかみさんの会による商店街の話は、水島がどのような場所であったのかを思い出させてくれ、キャンパス内の学びでは得られない地域の思いを実践的に学ぶことができました。

授業の工夫は、多彩な講師陣が、過去から未来までの歩みを整理し、参加学生にSDGsを基にして提言を書かせたことです。地域の思いを感じながら、水島が好きになる充実したプログラムになりました。



水島の歴史を紹介したパネル



まち歩きの様子



振り返りの様子

②Park(ing)Day 倉敷の実施 (2020年9月18日)

ミズシマ・パークマネジメント・Lab 代表理事 古川 明
(みずしま滞在型学習コンソーシアム 副会長)

一昨年、米国ポートランド市公園局から、来日中のジョニー・フェインさんからヒントを得て実施した Park(ing)Day。

昨年は、9月18日に「ミズシマ・パークマネジメント・Lab (以下、MPMラボ)」主催の下、一般社団法人ソトノバ・スタジオと連携しながら、全国6都市で、同時開催することになりました。(その他国内の開催都市は、横浜市、八千代市、四日市市、長浜市、竹原市)

Park(ing)Dayと一口に言っても、開催するまでの道のりは、かなりハードなものでした。7月初の参加メンバー募集を皮切りに、ソトノバと度重なる情報共有を図りながら、8月22日には、Park(ing)Dayの前段として重要な位置づけとなる、まちの特徴を精査する「Place Game」を開催。その翌週、1Day シャレットと称するまちのビジョンを描く作業をこ



エントランスボード作成中の学生

なした後、約1月をかけて、分析結果を確認しながら、まちの魅力や価値を如何に向上させていくか議論を重ねた上で、Park(ing)Day当日に表現(実践)する内容を決定し、当日を迎えるに至りました。

朝10時からスタートした会場づくりは、準備段階から参加してくれた米子在住のデザイナー、広島のみちづくりの専門家2人の協力の下、事前に練り上げた企画案に沿って進められました。会場となったアスファルト敷きの空き地スペースは、ボランティア参加してくださったまちの工務店や一般市民の方、大学の講義の一環として参加してくれた岡山大学の学生諸君などの協力もあって、みるみる素敵な空間に変貌を遂げました。

今回、Park(ing)Dayで設定したテーマは「ミズシマPALLETT」。そのコンセプトは、水島の過去・現在・未来を繋ぎ、お年寄りからお子さんまで、参加者ひとり一人に水島のことを肌で感じてもらうというものでした。

会が始まると、緑がほどよく配置され、ターフをお洒落に張巡らせた心地良い空間の下、かつて賑やかだった頃の水島の写真展示の前では、当時の状況を説明して下さるおかみさん会の皆さんの生き活きとした笑顔や、その説明に熱心に耳を傾ける高校・大学生の真剣な姿が、とても印象的でした。また、親子で参加して下さった方々に用意された、モルックやオセロゲーム、チョークアートで遊ぶ子供たちの楽しそうな姿も、Park(ing)Dayに華を添えてくれました。

MPMラボでは、今回の成功体験をバネに、引き続き、居心地の良い空間『まちのリビングづくり』を意識した、まちに日常的な賑わいを取り



ポスター

戻す活動を進めて行こうと思っています。



ホテルセレクトン 屋上より



会場入り口



先輩から、街づくりについて学ぶ高校生



ターフの下で遊ぶ親子



昔の写真を感慨深げに眺める街の人